

為替相場展望

2011年12月



調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/publication/>

【目 次】

為替相場概説	1
相場回顧	2
為替関連指標の動向	3 ～ 6
トピックス	7
見通し	8
資料	

◆本資料は2011年12月2日9:00時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆本資料に関するご照会は、下記あてお願いいたします。

欧米経済・市場動向グループ

井上 肇 (Tel : 03-3288-5314 Mail : inoue.hajime@jri.co.jp)

為替相場概説（2011年12月）

1. 相場回顧

＜11月のドル円相場＞

月初の米FOMCでFRBが今後の追加緩和に含みを残したことや、米超党派委員会による財政赤字削減協議の難航等を受けたリスク回避の動きから、中旬にかけて円がじり高に。月末にかけては、欧州での債務危機深刻化を受け、世界的にドルへの資金需要が高まったこと等から、円安ドル高に。

＜11月のユーロ円相場＞

ギリシャに端を発する債務問題がイタリアに波及し、ユーロ安が加速。その後、フランスの格下げ懸念、ドイツの10年国債入札不調等も加わり、25日にはユーロは102円台半ばまで下落。月末にかけては、日米欧主要中銀のドル資金拡充発表等を好感して、ユーロが小反発。

2. 為替関連指標の動向

＜日米独金利差と日米欧の金融政策＞

11月半ばにかけての独金利低下が、対ドル、対円でユーロ安圧力として作用。月下旬に独金利は上昇したものの、ソブリンリスク上昇を反映した面が大きく、むしろユーロ安要因。先行き、米国では景気の力強い回復が期待薄のなか、FRBは少なくとも2013年半ばまで事実上のゼロ金利政策を継続する方針。ユーロ圏では景気後退や金融システム不安への対応から、ECBは早晚、一段の利下げを余儀なくされる見込み。こうした状況下、内外金利差の大幅拡大は当面見込めず、本格的な円安反転は期待薄。

＜日米欧の貿易収支と生産・景況感格差＞

10月の本邦貿易収支（原数値）は、2ヵ月ぶりに赤字に転換。当面、世界経済の減速、既往円高、タイの洪水などが輸出を下押しする一方、原発停止を受けた火力発電シフトによる燃料需要増等により、輸入は高止まりする見込み。貿易収支の黒字基調回復にはなお時間がかかり、実需面からの円高圧力は抑制される公算。もっとも、経常収支黒字が維持されるもと、大幅な円安も期待薄。

10月の米鉱工業生産は緩やかな回復が持続。わが国の鉱工業生産は、10月は大幅上昇となったものの、震災後の急速な持ち直し局面は一巡。一方、9月のユーロ圏鉱工業生産は減少。金融システム不安、緊縮財政等による景気下押しもあり、先行きも生産は弱含む見込み。景況感格差からは円高圧力が減退する一方、ユーロ安圧力が増大する公算。

＜日本の対内対外証券投資動向＞

日本の証券投資は、対内投資が堅調の一方、対外投資は低調で、日本への資金流入が持続。10月末にEU・ユーロ圏が「包括戦略」で合意した後も欧州債務問題が収束せず、世界的にリスク回避の動きが持続。加えて、米欧ともに金利先高観が乏しく、内外金利差の拡大も見込み難い状況。こうした状

況下、海外投資家による日本国債への資金逃避が続く一方、本邦投資家による対外投資が低調にとどまる公算が大きく、引き続き円高に振れやすい状況。

＜米国の証券投資・IMM通貨先物＞

11月入り後、欧州債務問題再燃に伴い、米国債への資金逃避が再び強まり、ドル高圧力に。欧州債務問題が深刻化するなか、当面は海外投資家による米国債投資が堅調に推移する一方、米国投資家による対外投資が低調に推移し、ドルをサポートする公算。

IMM通貨先物取引では、10月末の本邦通貨当局の円売り介入を受けて、円買いポジションが大幅に減少したものの、その後再び増加傾向。ユーロ売りポジションも一旦減少したものの、再び増加傾向。円買いポジション、ユーロ売りポジションは積み増しの余地を残しているものの、例年、年末にかけては投機筋の持ち高調整が進みやすく、一時的に対ドルでの円安、ユーロ高に振れる可能性。

3. トピックス

＜欧州債務問題とユーロ圏の証券投資＞

足許、ユーロ圏からの対外証券投資は、域内投資家による対外投資の本国回帰の動きが強まるなか、売り越しに転換。一方、ユーロ圏への対内証券投資も、欧州債務問題が深刻化するなか、売り越し基調に転換。トータルで見ると、ユーロ圏への資金流入は減少傾向にあり、今後、独国債の受け皿機能低下、ユーロ圏のマイナス成長により、ユーロ圏の債券・株式市場からの資金流出が加速すれば、ユーロ安が加速する恐れ。

4. 見通し

＜ドル円相場の見通し＞

欧州債務問題を背景にしたリスク回避の動き、米FRBの量的緩和期待が円高圧力となる一方、債務問題の深刻化はドルへの資金需要を増大させる側面もあり、年内は77～78円台を中心に一進一退となる見込み。年明け以降、米景気の底割れ回避が確認されるにつれ、徐々にドルが持ち直す見込みながら、米景気の力強い回復が期待薄のなか、FRBの超低金利政策の長期化が見込まれ、ドルの本格上昇も期待薄。なお、年末で期限切れとなる米給与税減税、失業保険給付が延長されなければ、ドルが下振れるリスクも。

＜ユーロ円相場の見通し＞

欧州債務問題収束に向けた政策対応が進展すれば、一時的にユーロが買い戻される局面があるとみられるものの、①債務問題の抜本的解決にはなお課題が山積していること、②ユーロ圏の景気低迷が予想されること、③ECBの追加利下げ、かつ、低金利の長期化が見込まれること、等から、ユーロが下振れしやすい状況が持続する見通し。

相場回顧

ドル円は、中旬にかけて円じり高となったものの、下旬は円安ドル高に。ユーロは、債務危機が深刻化するなか、下落基調で推移。

<11月のドル円相場>

月初は覆面介入とみられる動きからドルが底堅く推移したものの、2～3日の米FOMCでFRBが今後の追加緩和に含みを残したことや、欧州債務問題の再燃、米超党派委員会による財政赤字削減協議の難航等を受けたリスク回避の動きから、中旬にかけて円がじり高に。もっとも、米財政赤字削減協議決裂後も、米国債格下げが回避されたほか、欧州での債務危機深刻化を受け、世界的にドルへの資金需要が高まったこと等から、月末にかけては円安ドル高に。月末は77円台半ば。

<11月のユーロ円相場>

10月末にギリシャのパパンドレウ首相がEUからの支援受け入れの是非を問う国民投票実施方針を表明したことを受け、月初からユーロ軟調地合いでスタート。独仏の説得等を受け、同首相は国民投票実施方針を撤回、ギリシャの与野党が首相辞任を条件に大連立政権樹立で合意したものの、この間に財政不安はイタリアに波及。同国のIMF監視下入り、ベルルスコーニ首相の辞任表明など、迅速な対応策が採られたものの、9日に同国の10年国債金利が「危険水域」とされる7%を突破すると、ユーロ安が加速。その後、仏国債格下げ懸念、独10年国債入札不調等も加わり、25日にはユーロは対ドルで1.32ドル台、対円で102円台半ばまで下落。月末にかけては、日米欧主要中銀のドル資金拡充発表等を好感して、ユーロが小反発。月末は104円台前半。

ドル円相場の推移



(資料)Bloomberg L.P.

ユーロドル相場の推移



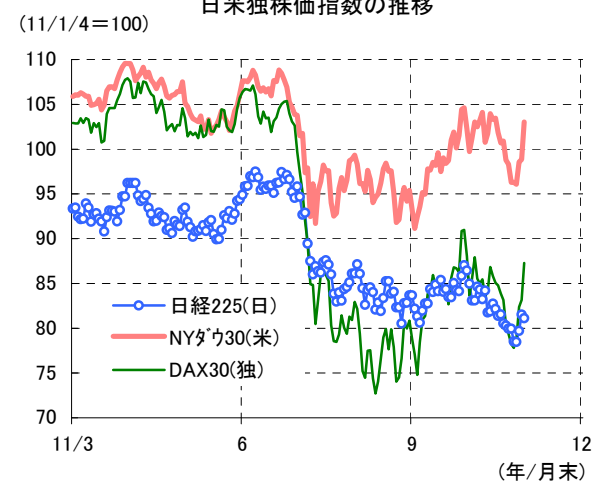
(資料)Bloomberg L.P.

ユーロ円相場の推移



(資料)Bloomberg L.P.

日米独株価指数の推移



(資料)Bloomberg L.P.

(株)日本総合研究所 為替相場展望 2011年12月

先行きも内外金利差の大幅拡大が見込めないなか、本格的な円安反転は期待薄。

〈日米独2年債利回りと日米欧の金融政策〉

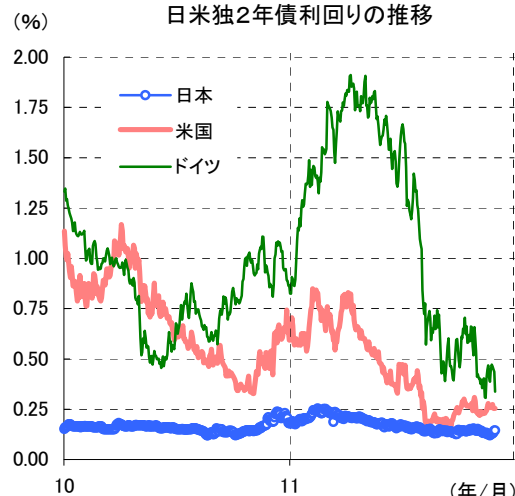
11月入り後、欧州債務問題への警戒感が一段と強まるなか、日米独国債に逃避資金が流入し、月半ばにかけて独2年債利回りが大幅に低下し、日米の2年債利回りも底這い圏ながらも小幅低下。2～3日の米FOMCでFRBが今後のQE3を含めた追加緩和実施に含みを残したこと（今回は追加緩和見送り）や、ECBが3日の理事会で市場の予想に反して0.25%の利下げを決定したことも、米独それぞれの金利低下に作用。もっとも、月下旬は、23日の独10年国債の入札不調を受けて、独2年債利回りが一時急上昇。

〈日・米・独金利差とドル・円・ユーロ相場〉

月半ばにかけての独金利低下が、対ドル、対円でユーロ安圧力として作用。月下旬に独金利は上昇したものの、ソブリンリスク上昇を反映した面が大きく、むしろユーロ安要因。

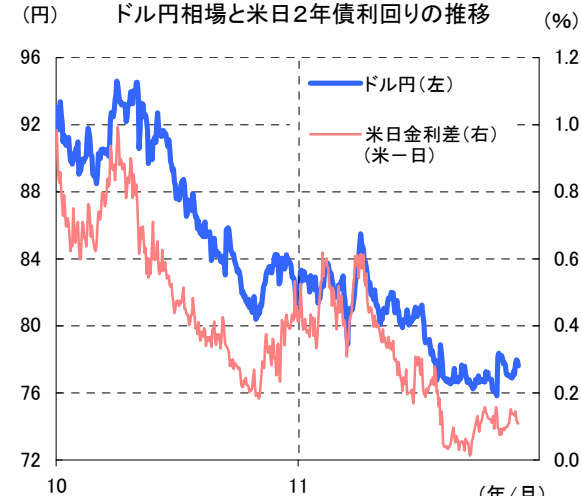
先行き、米国では景気の力強い回復が期待薄のなか、FRBは少なくとも2013年半ばまで事実上のゼロ金利政策を継続する方針。ユーロ圏では景気後退や金融システム不安への対応から、ECBは早晚一段の利下げを余儀なくされる見込み。一方、日銀も経済・金融の情勢次第では、追加緩和を辞さない構えながら、既に金利低下余地は乏しく、影響は限られる見込み。こうした状況下、内外金利差の大幅拡大は当面見込めず、本格的な円安反転は期待薄。

日米独2年債利回りの推移



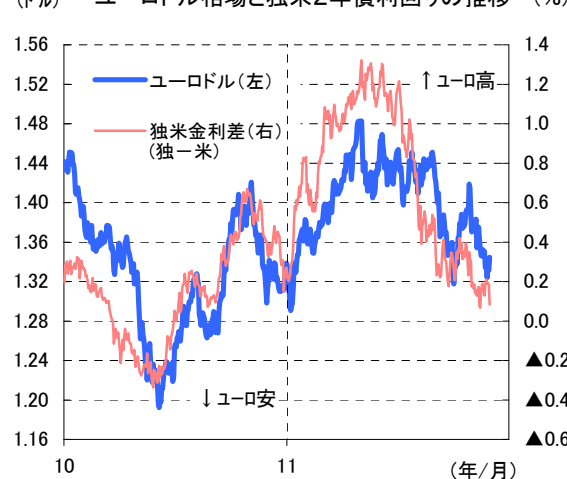
(資料)Bloomberg L.P.

ドル円相場と米日2年債利回りの推移



(資料)Bloomberg L.P.

ユーロドル相場と独米2年債利回りの推移



(資料)Bloomberg L.P.

ユーロ円相場と独日2年債利回りの推移



(資料)Bloomberg L.P.

貿易収支の黒字基調回復にはなお時間がかかり、実需面からの円高圧力が抑制される公算。景況感格差からは、円高圧力減退の一方、ユーロ安圧力が増大。

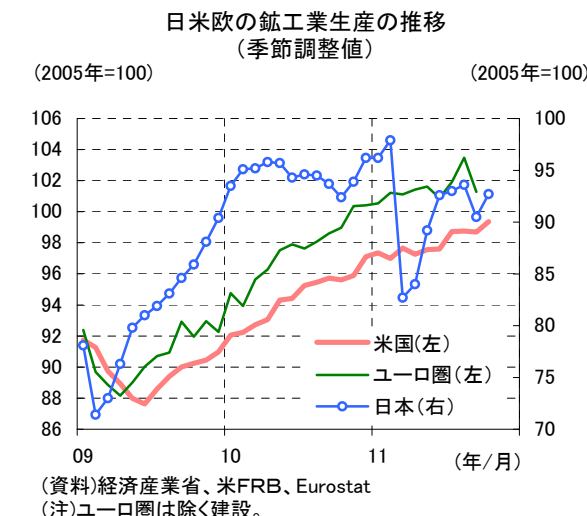
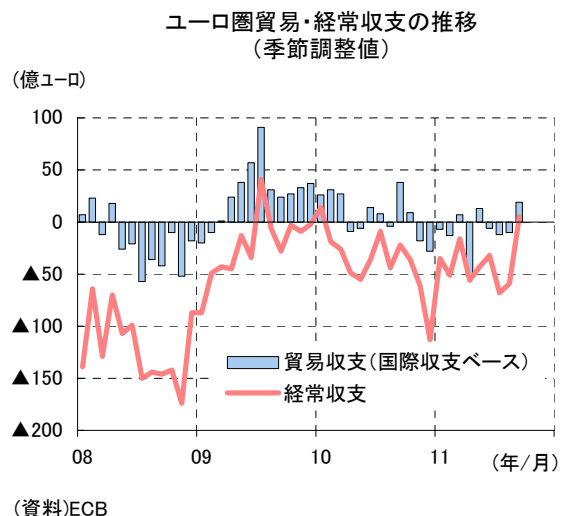
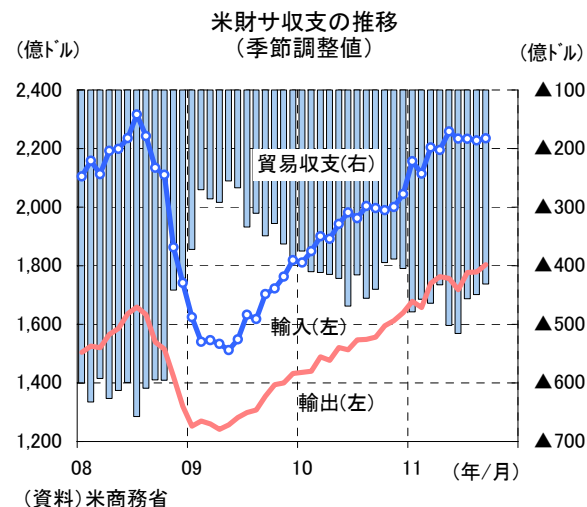
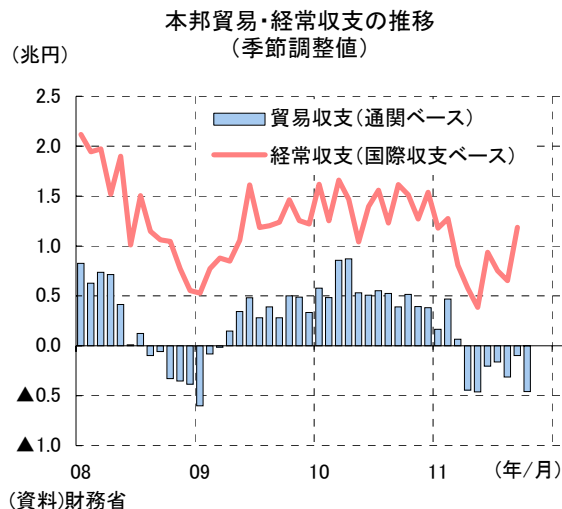
＜日米欧の貿易収支＞

10月の本邦貿易収支（原数値）は、輸出が減少する一方、輸入が増加し、2ヵ月ぶりに赤字に転換。当面、世界経済の減速、既往円高、タイの洪水などが輸出を下押しする一方、原発停止を受けた火力発電シフトによる燃料需要増等により、輸入は高止まりする見込み。貿易収支の黒字基調回復にはなお時間がかかり、実需面からの円高圧力は抑制される公算。もっとも、経常収支黒字が維持されるもと、大幅な円安も期待薄。

9月の米貿易赤字は、輸出が増加し、▲431億ドルと3ヵ月連続で赤字幅が縮小。実需面からのドル安圧力が減退しつつある状況。9月のユーロ圏の貿易収支は、輸出が増加し、+19億ユーロの黒字に転化したものの、黒字幅は低水準で、実需面からのユーロ高圧力は限定的。

＜日米欧の生産・景況感格差＞

10月の米鉱工業生産は前月比+0.7%と緩やかな回復が持続。わが国の生産は、10月は前月比+2.4%と大幅上昇となったものの、震災後の急速な持ち直し局面は一巡。一方、9月のユーロ圏鉱工業生産は前月比▲2.1%。金融システム不安、緊縮財政等による景気下押しもあり、先行きも生産は弱含む見込み。景況感格差からは円高圧力は減退する一方、ユーロ安圧力が増大する公算。



日本の証券投資フローは、対内投資が堅調の一方、対外投資は低調。今後もこの傾向が持続する公算大で、引き続き円高に振れやすい状況。

＜月次対内対外証券投資（9月迄）＞

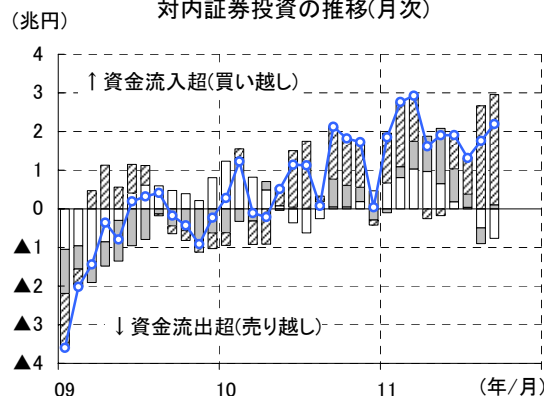
対内証券投資は、本年入り以降、買い越しが持続。夏以降は世界的な景気の先行き懸念や欧米債務問題への懸念から、海外投資家のリスク回避の動きが強まり、株式投資が減少する一方、短期債を中心に債券投資が増加。一方、対外証券投資は、持ち直し傾向。3月の東日本大震災以降、手元流動性確保の必要性、株安によるリスク許容度低下等から、対外投資が低調に推移してきたものの、債券投資を中心に投資意欲がやや回復傾向に。もっとも、トータルでみると、日本への資金流入が持続。

＜週次対内対外証券投資（10月以降）＞

対内証券投資は、10月に一旦売り越し（資金流出超）になったものの、11月に買い越し（資金流入超）に転換。内訳をみると、短期債への投資が堅調。一方、対外証券投資は低調。トータルでみると、日本への資金流入が持続。

10月末にEU・ユーロ圏が「包括戦略」で合意した後も欧州債務問題が収束せず、世界的にリスク回避の動きが持続。加えて、米欧ともに金利先高観が乏しく、内外金利差の拡大も見込み難い状況。こうした状況下、海外投資家による日本国債への資金逃避が続く一方、本邦投資家による対外投資が低調にとどまる公算が大きく、引き続き円高に振れやすい状況。

対内証券投資の推移(月次)



□ 株式 ■ 中長期債 ▨ 短期債 ● 計

(資料)財務省、日銀
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。

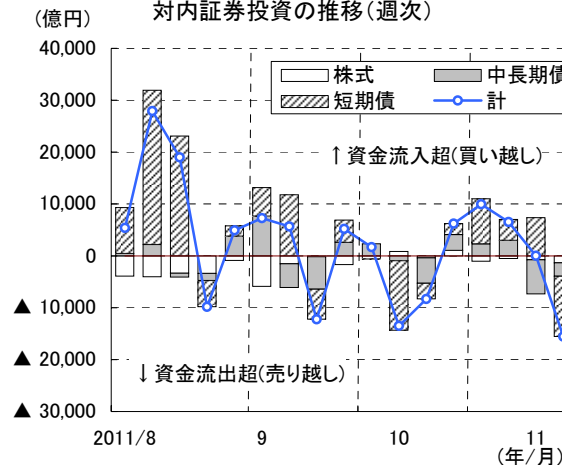
対外証券投資の推移(月次)



□ 株式 ■ 中長期債 ▨ 短期債 ● 計

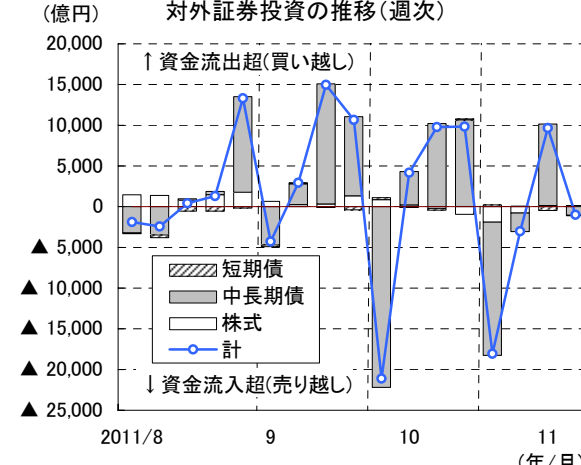
(資料)財務省、日銀
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。

対内証券投資の推移(週次)



(資料)財務省

対外証券投資の推移(週次)



(資料)財務省

米国の証券投資フローがドルをサポート。IMM通貨先物は、円買い、ユーロ売りが再び拡大したものの、年末にかけて持ち高調整が進む可能性。

〈米国の対内対外証券投資動向〉

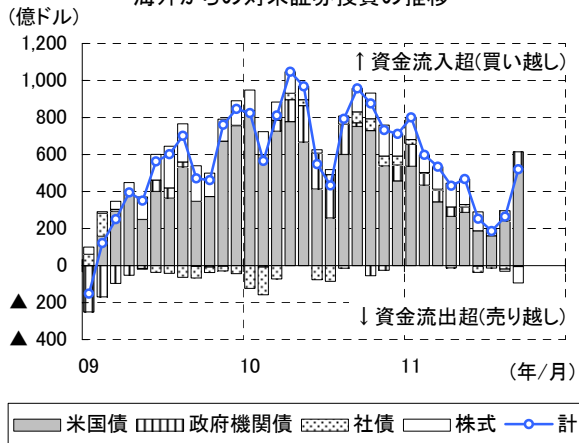
海外からの対米証券投資は、本年夏以降、持ち直し傾向。一方、米国からの対外証券投資は、本年夏以降急減速。10月入り後は、欧州債務問題収束に向けた対応進展を受けて、過度なリスク回避の動きが後退し、米国債やドルへの資金逃避が一服。もともと、11月入り後は、欧州債務問題再燃に伴い、米国債への資金逃避も再び強まり、ドル高圧力に。

欧州債務問題が深刻化するなか、当面は海外投資家による米国債投資が堅調に推移する一方、米国投資家による対外投資が低調に推移し、ドルをサポートする公算。

＜I MM通貨先物ポジション＞

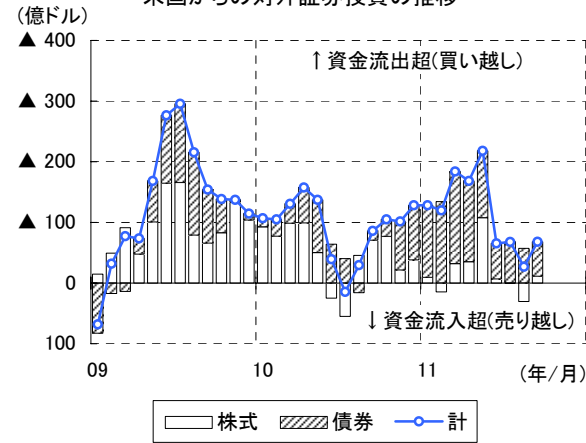
I MM通貨先物取引(非商業部門)の円ポジションは、10月末の本邦通貨当局の円売り介入を受けて、円買いポジションが大幅に減少したものの、その後再び増加傾向。ユーロポジションも、10月末にかけてユーロ圏の危機対応の進展を受けて、ユーロ売りポジションが一旦減少したものの、11月入り以降再び増加。円買いポジション、ユーロ売りポジションは積み増しの余地を残しているものの、例年、年末にかけては投機筋の持ち高調整が進みやすく、一時的に対ドルでの円安、ユーロ高に振れる可能性。

海外からの対米証券投資の推移



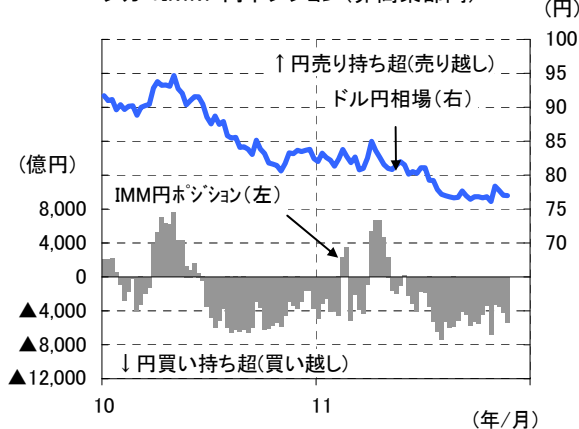
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。

米国からの対外証券投資の推移



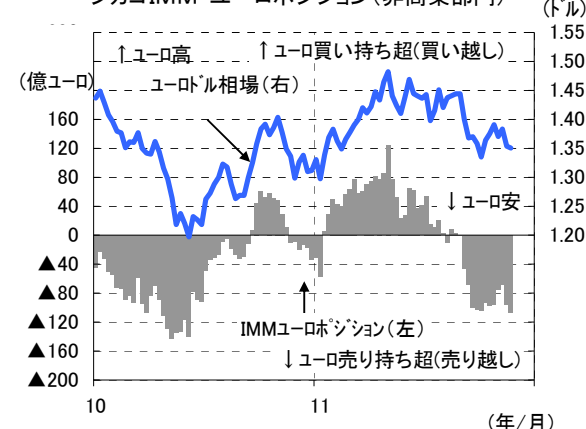
(資料)米財務省
(注)いずれも3カ月移動平均値。

シカゴIMM・円ポジション(非商業部門)



(注)直近値は11/22。
(資料)米CFTC

シカゴIMM・ユーロポジション(非商業部門)



(注)直近値は11/22。
(資料)米CFTC

(株)日本総合研究所 為替相場展望 2011年12月

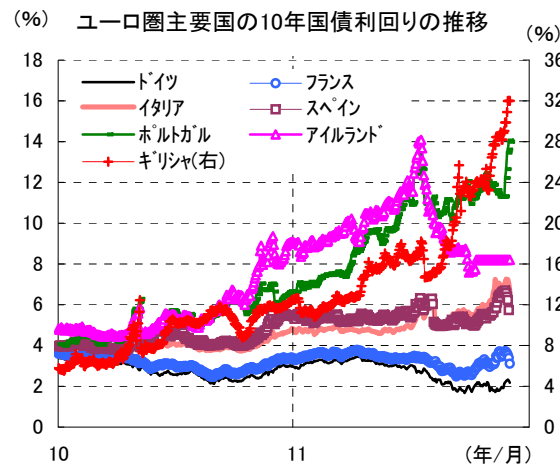
ユーロ圏の証券投資は、ユーロ圏への資金流入が減少傾向。今後、独国債の受け皿機能低下、ユーロ圏のマイナス成長により、ユーロ安が加速する恐れ。

11月入り後、ユーロ圏各国で軒並み国債金利が上昇（国債価格は下落）するなか、23日にはドイツの10年国債の入札不調を受けて、ユーロ圏で最も安全な金融資産とされるドイツ国債までも金利が上昇。

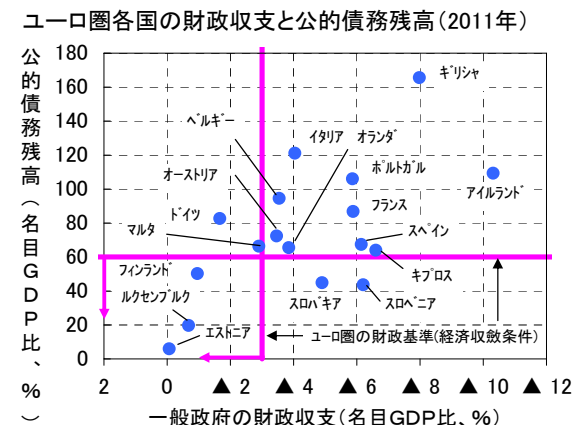
ドイツ国債は、これまでユーロ圏内での逃避資金の受け皿として機能し、ユーロ圏債券市場から圏外への過度な資金流出回避に寄与。今後、ドイツ国債のソブリンリスクが意識されれば、ユーロ圏の債券投資の受け皿として機能しなくなり、ユーロ圏債券市場からの資金流出が加速する恐れ。

さらに、ユーロ圏では、金融システム不安、財政不安国の緊縮財政等が景気の下押し圧力となり、2011年10～12月期から2012年1～3月期にかけてマイナス成長となる見込み。緩やかながら景気回復基調の持続が見込まれる日米や、高成長が見込まれる新興国と比べて、ユーロ圏への株式投資の妙味も低下する公算。

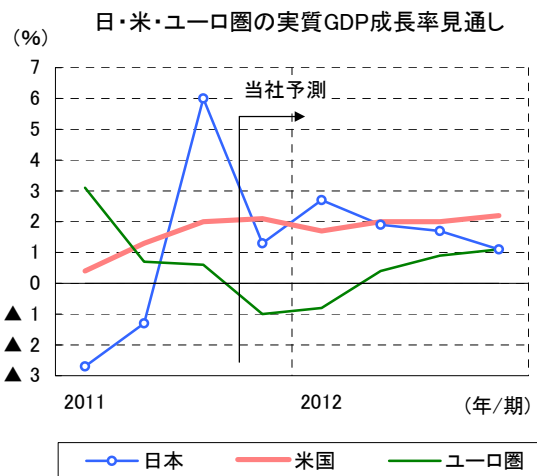
足許、ユーロ圏からの対外証券投資は、圏内投資家による対外投資の本国回帰の動きが強まり、売り越し（資金流入超）に転換。一方、ユーロ圏への対内証券投資も、欧州債務問題が深刻化するなか、売り越し（資金流出超）基調に転換。トータルで見ると、ユーロ圏への資金流入が減少傾向にあり、今後、独国債の受け皿機能低下、ユーロ圏のマイナス成長により、ユーロ圏の債券・株式市場から資金流出が加速すれば、ユーロ安が加速する恐れ。



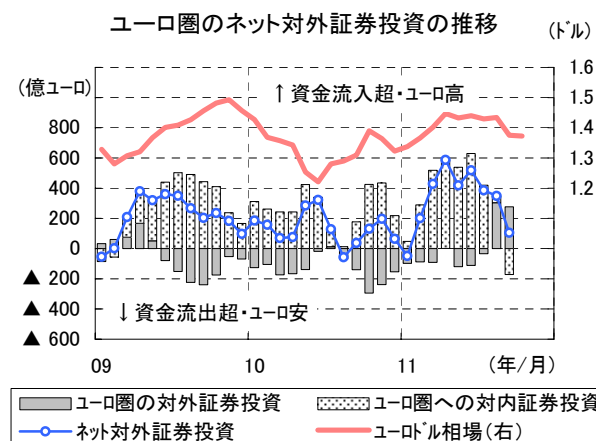
(資料)Bloomberg L.P.



(資料)IMFをもとに日本総研作成
(注)2011年はIMF見通し。



(資料)内閣府、米商務省、Eurostatをもとに日本総研作成



(資料)ECB
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。ネット対外証券投資は、ユーロ圏の対外証券投資からユーロ圏への対内証券投資を引いたもの。

見通し

ドル円は、年明け以降、徐々にドルが持ち直す見込みながら、リスクは円高ドル安方向。ユーロは、下振れしやすい状況が持続する見通し。

＜ドル円相場の見通し＞

欧州債務問題を背景にしたリスク回避の動き、米F R Bの量的緩和期待が円高圧力となる一方、政府・日銀が円売り介入を含め、円高阻止への姿勢を示しているほか、欧州債務問題の深刻化はドルへの資金需要を増大させている側面もあり、年内は77～78円台を中心に一進一退となる見込み。

年明け以降は、米景気の底割れ回避が確認されるにつれ、量的緩和期待が後退し、徐々にドルが持ち直すと予想。もっとも、米景気の力強い拡大が期待薄のなか、米F R Bの超低金利政策の長期化が見込まれることから、ドルの本格上昇も期待薄。

＜ユーロ円相場の見通し＞

欧州債務問題収束に向けた政策対応が進展すれば、一時的にユーロが買い戻される局面があるとみられるものの、①欧州債務問題の抜本的解決にはなお課題が山積していること、②金融システム不安、緊縮財政等が景気下押し圧力となり、当面、ユーロ圏の景気低迷が予想されること、③ユーロ圏の景気後退や金融システム不安への対応から、E C Bは早晩、追加利下げを余儀なくされるとともに、低金利が長期化するとみられること、等から、ユーロが下振れしやすい状況が持続する見通し。

ドル円相場見通し

	2011年		2012年		
	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9
期中平均	76.86	78	78	79	80
(高値)	81.48	80	80	81	82
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	75.95	75	75	76	77

予測

【ドル円、ユーロ見通しの前提】

本見通しは、欧州債務問題収束に向けた政策対応が進展し、金融危機が回避されることが前提。
加えて、2011年末で期限切れとなる米給与税減税と失業保険給付が延長されることを前提。11月に米超党派委員会による財政赤字削減協議が決裂したことで、これらの延長実現に不透明感が増しており、延長ができなければ、米景気の底割れ懸念が強まり、ドルが下振れするリスク。

ドル円相場見通し



ユーロ円相場見通し

	2011年		2012年		
	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9
期中平均	106	105	104	104	104
(高値)	117.7	109	110	110	110
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	101.9	99	98	98	98

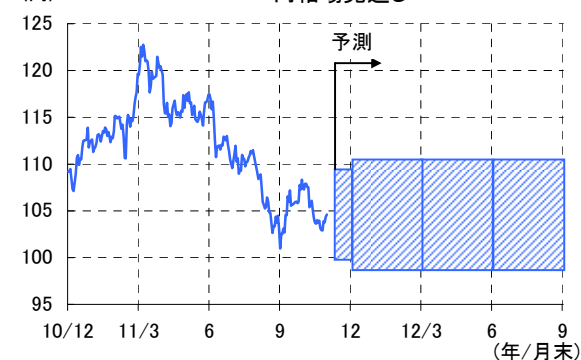
予測

ユーロドル相場見通し

	2011年		2012年		
	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9
期中平均	1.38	1.36	1.34	1.32	1.30
(高値)	1.46	1.43	1.41	1.39	1.37
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	1.34	1.29	1.27	1.25	1.23

予測

ユーロ円相場見通し



(株)日本総合研究所 為替相場展望 2011年12月

内外市場データ（月中平均）

	短期金利		ユーロ円(TIBOR)		円・円スワップ			国債 10年物 (%)	プライムレート		為替相場		日経平均 株価 (円)	米国市場				欧州市場	
	公定歩合 (%)	無担0/N (%)	3カ月 (%)	6カ月 (%)	2年 (%)	5年 (%)	10年 (%)		短期 (%)	長期 (%)	¥/\$	¥/Eur		F F 0/N	1-03カ月	10年国債	N Y ダウ 工業株	1-03カ月	10年国債
08/1	0.75	0.502	0.85	0.89	0.83	1.09	1.60	1.42	1.875	2.10	107.66	158.14	13731.31	3.93	3.93	3.72	12538.12	4.48	4.05
08/2	0.75	0.504	0.85	0.88	0.89	0.96	1.64	1.44	1.875	2.15	107.16	158.18	13547.84	2.97	3.12	3.73	12419.57	4.36	3.96
08/3	0.75	0.511	0.86	0.89	0.92	1.08	1.51	1.30	1.875	2.10	100.79	156.28	12602.93	2.60	2.85	3.48	12193.88	4.60	3.81
08/4	0.75	0.506	0.84	0.88	0.98	1.16	1.59	1.41	1.875	2.10	102.49	161.53	13357.70	2.26	3.02	3.64	12656.63	4.78	4.05
08/5	0.75	0.505	0.84	0.88	1.18	1.47	1.87	1.67	1.875	2.40	104.14	162.05	13995.33	1.99	2.84	3.87	12812.48	4.86	4.20
08/6	0.75	0.509	0.84	0.89	1.30	1.62	1.99	1.75	1.875	2.45	106.90	166.23	14084.60	2.00	2.95	4.08	12056.67	4.94	4.55
08/7	0.75	0.503	0.85	0.90	1.18	1.44	1.82	1.60	1.875	2.40	106.81	168.35	13168.91	2.02	3.00	3.97	11322.38	4.96	4.50
08/8	0.75	0.504	0.85	0.89	1.01	1.26	1.66	1.45	1.875	2.25	109.28	163.75	12989.35	1.99	3.00	3.88	11530.75	4.96	4.22
08/9	0.75	0.495	0.85	0.90	1.05	1.31	1.69	1.48	1.875	2.30	106.75	153.25	12123.53	1.86	3.95	3.68	11114.08	5.02	4.10
08/11	0.50	0.301	0.82	0.86	0.89	1.13	1.48	1.46	1.675	2.40	96.81	123.25	8531.45	0.39	3.11	3.46	8614.55	4.23	3.57
08/12	0.30	0.211	0.86	0.88	0.85	1.02	1.32	1.31	1.675	2.40	91.28	122.79	8463.62	0.17	2.47	2.40	8595.56	3.29	3.06
09/1	0.30	0.120	0.73	0.78	0.75	0.94	1.26	1.25	1.475	2.25	90.41	119.68	8331.49	0.15	1.73	2.47	8396.20	2.45	3.09
09/2	0.30	0.111	0.71	0.77	0.72	0.89	1.19	1.29	1.475	2.25	92.50	118.33	7694.78	0.22	1.65	2.85	7749.01	1.96	3.17
09/3	0.30	0.100	0.68	0.75	0.74	0.91	1.25	1.30	1.475	2.25	97.87	127.44	7764.58	0.18	1.62	2.80	7235.47	1.63	3.06
09/4	0.30	0.104	0.62	0.72	0.75	0.99	1.39	1.44	1.475	2.30	99.00	130.50	8767.96	0.15	1.49	2.90	7992.12	1.42	3.19
09/5	0.30	0.102	0.58	0.70	0.69	0.94	1.36	1.44	1.475	2.10	96.30	131.92	9304.43	0.17	1.23	3.30	8398.37	1.28	3.42
09/6	0.30	0.104	0.56	0.68	0.68	0.92	1.41	1.47	1.475	2.10	96.52	135.46	9810.31	0.21	1.07	3.70	8593.00	1.23	3.55
09/7	0.30	0.102	0.56	0.67	0.62	0.86	1.37	1.34	1.475	1.90	94.50	133.00	9691.12	0.16	0.91	3.53	8679.75	0.95	3.36
09/8	0.30	0.106	0.55	0.66	0.60	0.88	1.46	1.37	1.475	1.95	94.84	135.40	10430.35	0.16	0.69	3.57	9375.06	0.83	3.33
09/9	0.30	0.102	0.53	0.65	0.56	0.83	1.41	1.31	1.475	1.80	91.49	132.80	10302.87	0.15	0.53	3.39	9634.97	0.73	3.29
09/10	0.30	0.106	0.53	0.64	0.58	0.86	1.47	1.33	1.475	1.70	90.29	133.87	10066.24	0.12	0.49	3.36	9857.34	0.69	3.23
09/11	0.30	0.105	0.52	0.63	0.56	0.83	1.48	1.35	1.475	1.85	89.19	132.98	9640.99	0.12	0.25	3.38	10227.55	0.67	3.28
09/12	0.30	0.101	0.47	0.59	0.48	0.71	1.39	1.26	1.475	1.65	89.55	130.95	10169.01	0.12	0.25	3.59	10433.44	0.67	3.23
10/1	0.30	0.096	0.45	0.57	0.48	0.72	1.42	1.33	1.475	1.65	91.16	130.30	10661.62	0.12	0.24	3.71	10471.24	0.63	3.29
10/2	0.30	0.101	0.44	0.56	0.47	0.72	1.41	1.33	1.475	1.65	90.28	123.58	10175.13	0.13	0.23	3.68	10214.51	0.60	3.19
10/3	0.30	0.097	0.44	0.55	0.46	0.71	1.40	1.34	1.475	1.60	90.52	122.96	10671.49	0.16	0.23	3.71	10677.52	0.59	3.13
10/4	0.30	0.093	0.41	0.52	0.47	0.72	1.40	1.35	1.475	1.65	93.38	125.57	11139.77	0.20	0.25	3.82	11052.15	0.59	3.09
10/5	0.30	0.091	0.39	0.50	0.48	0.69	1.34	1.27	1.475	1.60	91.74	114.68	10103.98	0.20	0.36	3.40	10500.19	0.63	2.80
10/6	0.30	0.095	0.39	0.50	0.47	0.65	1.27	1.20	1.475	1.45	90.92	110.99	9786.05	0.18	0.45	3.19	10159.25	0.66	2.63
10/7	0.30	0.094	0.37	0.49	0.45	0.59	1.16	1.09	1.475	1.45	87.72	111.81	9456.84	0.18	0.43	2.98	10222.24	0.79	2.65
10/8	0.30	0.095	0.37	0.49	0.43	0.54	1.04	0.98	1.475	1.45	85.47	110.36	9268.24	0.19	0.35	2.68	10350.40	0.83	2.37
10/9	0.30	0.090	0.36	0.47	0.41	0.55	1.13	1.06	1.475	1.45	84.38	109.94	9346.72	0.20	0.31	2.64	10598.07	0.83	2.34
10/10	0.30	0.091	0.34	0.45	0.38	0.47	0.97	0.89	1.475	1.30	81.87	113.65	9455.09	0.19	0.29	2.51	11044.49	0.94	2.37
10/11	0.30	0.091	0.34	0.45	0.40	0.55	1.12	1.05	1.475	1.40	82.48	112.64	9797.18	0.20	0.29	2.75	11198.31	0.98	2.56
10/12	0.30	0.087	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.19	1.475	1.60	83.41	110.28	10254.46	0.18	0.29	3.28	11465.26	0.95	2.96
11/1	0.30	0.085	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.21	1.475	1.50	82.63	110.53	10449.53	0.17	0.29	3.36	11802.37	0.95	3.05
11/2	0.30	0.093	0.34	0.45	0.43	0.71	1.34	1.28	1.475	1.65	82.53	112.70	10622.27	0.16	0.31	3.56	12190.00	1.04	3.23
11/3	0.30	0.085	0.34	0.45	0.40	0.64	1.29	1.25	1.475	1.60	81.79	114.48	9852.45	0.14	0.31	3.40	12081.48	1.13	3.25
11/4	0.30	0.062	0.33	0.44	0.39	0.65	1.32	1.27	1.475	1.70	83.35	120.34	9644.63	0.10	0.27	3.43	12434.88	1.27	3.35
11/5	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.56	1.19	1.14	1.475	1.55	81.23	116.03	9650.78	0.09	0.26	3.15	12579.99	1.38	3.11
11/6	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.54	1.15	1.13	1.475	1.50	80.51	115.82	9541.53	0.09	0.24	2.99	12097.31	1.43	2.97
11/7	0.30	0.073	0.33	0.44	0.37	0.53	1.13	1.11	1.475	1.50	79.47	113.52	9996.68	0.07	0.22	2.98	12515.68	1.54	2.78
11/8	0.30	0.081	0.33	0.44	0.33	0.46	1.03	1.02	1.475	1.35	77.22	110.62	9072.94	0.10	0.26	2.29	11326.62	1.50	2.25
11/9	0.30	0.080	0.33	0.43	0.34	0.46	1.00	1.00	1.475	1.40	76.84	105.89	8695.42	0.08	0.31	1.96	11175.45	1.48	1.87
11/10	0.30	0.081	0.33	0.43	0.35	0.47	1.01	1.01	1.475	1.40	76.77	105.24	8733.56	0.07	0.36	2.13	11515.93	1.51	2.04
11/11	0.30	0.073	0.31	0.41	0.35	0.45	0.95	0.94	1.475	1.40	77.54	105.05	8506.11	0.08	0.36	2.00	11804.33	1.43	1.95

(注) 公定歩合とプライムレートは月末値。